

氏名	林 裕栄	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	老年看護学、在宅ケア学、地域看護学、家族看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	千葉大学看護学部看護学科卒業（看護学士）、埼玉大学 経済学部経済学研究科経済科学専攻（修士課程）修了（修士（経済学））、日本赤十字看護大学 大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）修了（博士（看護学））				
経歴	1984年～埼玉県保健所勤務(5年間)、1989年～埼玉県立衛生短期大学助手・講師、埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師・准教授を経て、2014年～同大学看護学科教授				
所属学会（役職）	日本看護研究学会（査読委員）、日本看護学教育学会（評議員・査読委員）、日本看護科学学会、日本在宅ケア学会（代議員）、日本看護学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本老年看護学会等				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	クエスチョン・バンク介護福祉士国家試験問題解説2023-24	共著	あり	メディック・メディア、553頁	青木宏心・林 裕栄他	2023年4月
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	特別養護老人ホームの人材育成と課題 -看護職の施設長へのインタビュー調査から-	共著		第27回日本看護管理学会学術集会、東京国際フォーラム	○林裕栄・林晴美・アリヤ聖子・翠川正美	2023年8月
2	特別養護老人ホームで働く看護職員の人材育成と課題	共著		第54回（2023年度）日本看護学会学術集会、大阪国際会議場	○アリヤ聖子・林晴美・林裕栄・市原かつ江・鷲尾かおる・翠川正美・長谷部朋子・飯島若子・柳澤大恵市原・	2023年9月
3	A県における訪問看護ステーション内の現任教育の現状と課題	共著		第54回（2023年度）日本看護学会学術集会、大阪国際会議場	○武田美津代・林裕栄・水間夏子	2023年9月
4	皮膚・排泄ケア認定看護師による介護老人福祉施設への遠隔褥瘡コンサルテーションの試み	共著		第54回（2023年度）日本看護学会学術集会パシフィコ横浜 ノース	○島田美穂・林裕栄・武田美津代・善生まり子・辻玲子	2023年9月
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			訪問看護師育成のための教育ステーションの機能と課題に関する研究	研究代表者	2020.4～2024.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	家族看護学	○	7コマ	毎回ごとにPWを取り入れたたり、動画の視聴をするなど講義にリアリティを増すように工夫した。		
2	認知症看護		1コマ	ユマニチュードについて、その理論や活用方法など卒後の実践現場での活用ができるように教授した。		

3	老年看護学Ⅰ		2コマ	老年看護分野の制度政策、高齢者を主としたヘルスプロモーションなどを教授した。その際には、新しい情報を取り入れるように務めた。
4	老年看護学Ⅳ（地域ケアシステム）	○	8コマ	老年看護学実習Ⅱの体験のリフレクションや地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を教授した。地域で活躍している看護師2名をゲストスピーカーとして招き、臨床現場のイメージづくりをすすめるとともに、将来の職業選択について考えることができるように務めた。
5	大学院（博士前期課程）：看護研究		4コマ	質的研究法の1つであるM-GTAをテキストの抄読、論文のクリテックをとおして理解できるように教授した。
6	大学院（博士前期課程）：看護理論		1コマ	臨床で使われる看護理論（大理論、中範囲理論）のうち、家族理論、家族システム理論について教授した。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	大学院（博士前期課程）：看護学演習（老年看護）	○	15コマ	修士論文作成に向けて指導を実施した。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学実習Ⅰ		2023年4月～6月	科目担当者として、実習施設である2か所の老人福祉センターに出向き、学生が利用者とのコミュニケーションの機会などを通して高齢者の心身・社会的側面の理解が深まるよう実習施設関係者との連携を密にして実施した。
2	老年看護学実習Ⅱ		2023年10月～12月	主に特別養護老人ホームでの実習を担当した。施設の機能や看護職の役割、多職種連携について理解できるように実習施設との事前打ち合わせや当日の運営に関与した。
3	総合実習		2023年4月～7月	訪問看護ステーションの実習を行う2名の学生に対して看護過程の展開を指導した。

(4) 論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	2023.4～2024.1	主指導	4名	副指導 0名
2	修士論文	2022.4～現在	主指導（指導教員）	3名	副指導（指導補助教員） 0名
3	博士論文	2023.4～現在	主指導（指導教員）	1名	副指導（指導補助教員） 2名

(5) その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	福島県立医科大学博士前期課程修士論文審査	2024.2	該当修士論文の審査および助言を行い、論文の助言を行いブラッシュアップに努めた。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉県精神看護・精神地域ケア事例検討会	埼玉県立大学オープンカレッジ	精神科事例検討会を定期的に開催し、県内外の支援者の支援スキルの向上を図った。	2023.5～ 2024.2

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	埼玉県福祉部地域包括ケア	埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議 委員	2020.6～2024.5
2	埼玉県保健医療部医療人材課	埼玉県看護職員確保委員会 委員	2020.10～2024.5
3	埼玉県保健医療部	埼玉県訪問看護推進検討委員会委員	2018.4～2024.5
4	日本看護学教育学会	評議員・査読委員	2020.6～2024.6
5	日本看護研究学会	査読委員	2020.7～現在
6	日本在宅ケア学会	代議員	2022.6～2026.5

7	もくせい家族会	評議員	2017.4～現在
8	埼玉県訪問看護ステーション協会	顧問	2016.4～現在
9	埼玉県訪問看護ステーション協会	新卒者等訪問看護師育成プログラム作成委員会	2015.4～現在
10	認知症者と家族の会	相談世話人	2003.4～現在
11	埼玉県看護協会	看護師職能委員Ⅱ	2019.6～2025.5
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	副学長兼学部長	2023.4～2025.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		